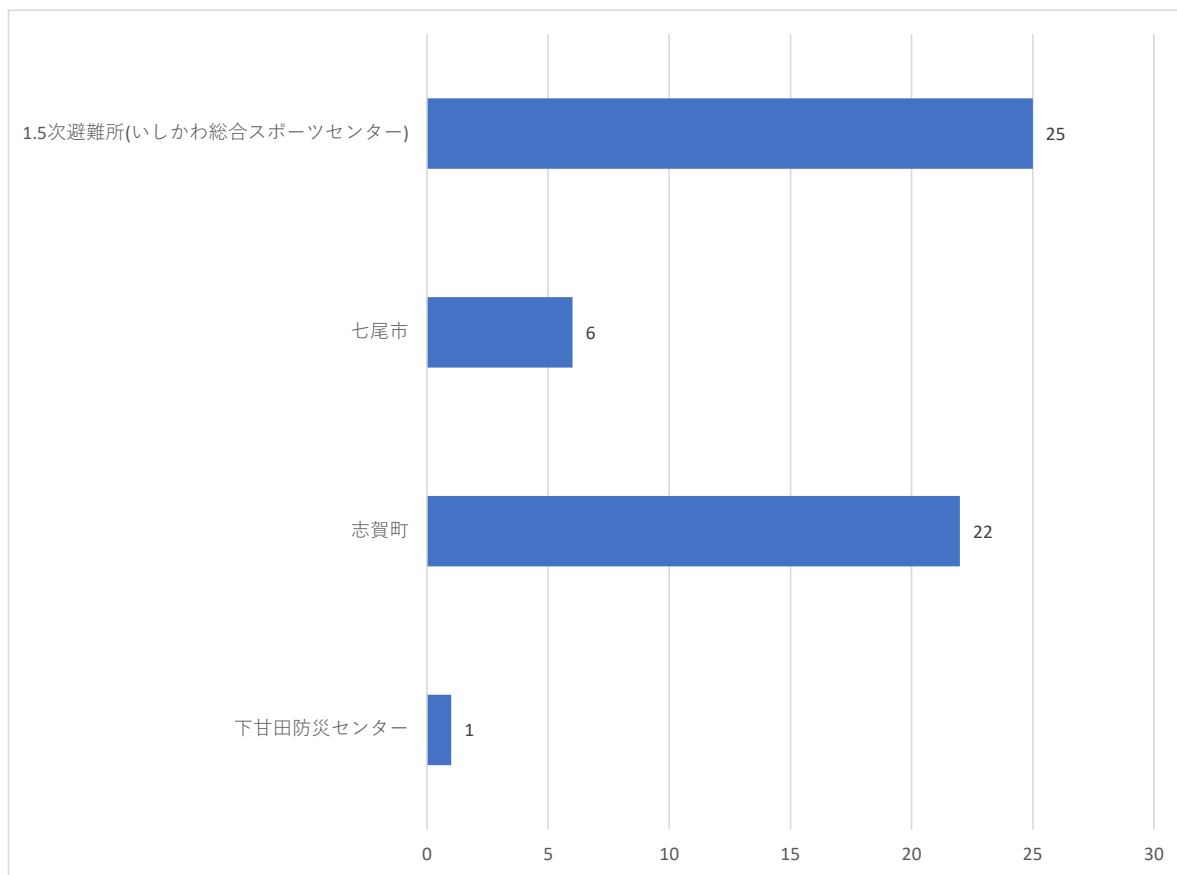


能登半島地震 静岡DWA T派遣者アンケート（結果）

1 回答件数 50件

2 集計結果

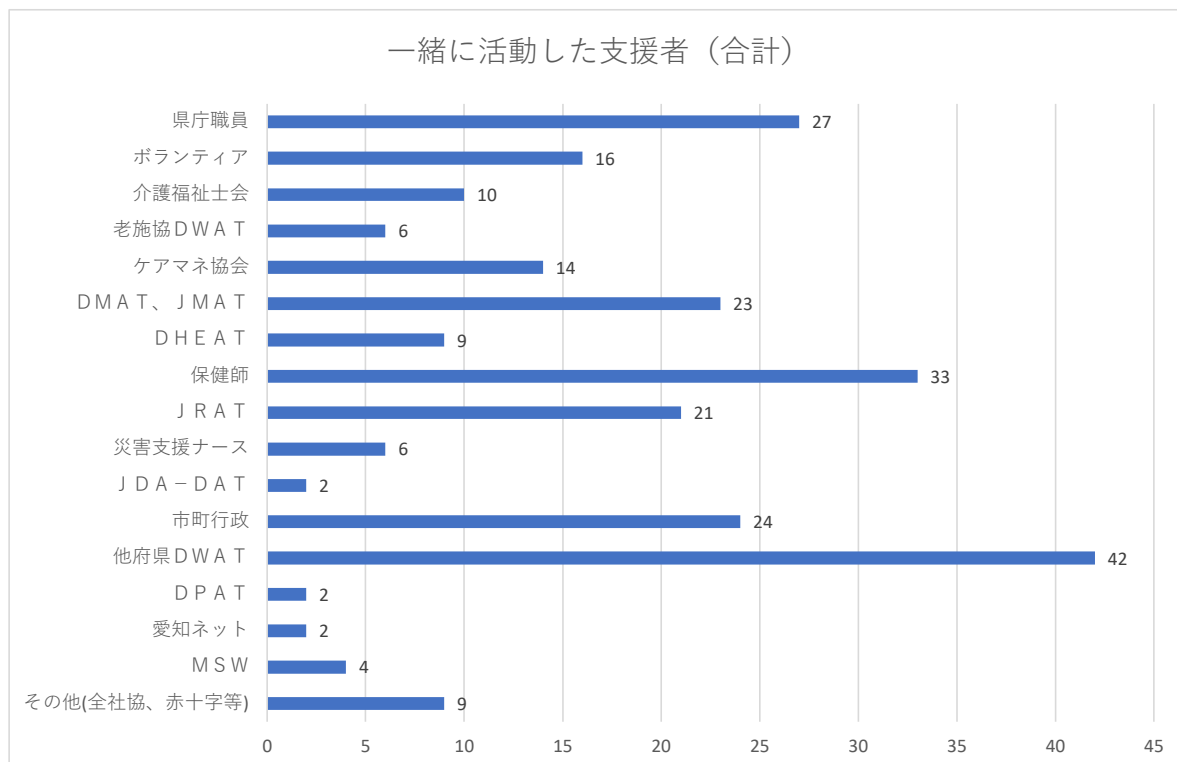
(1)活動場所を選択してください（複数回答可）



(2)活動期間を記入してください

<集計省略>

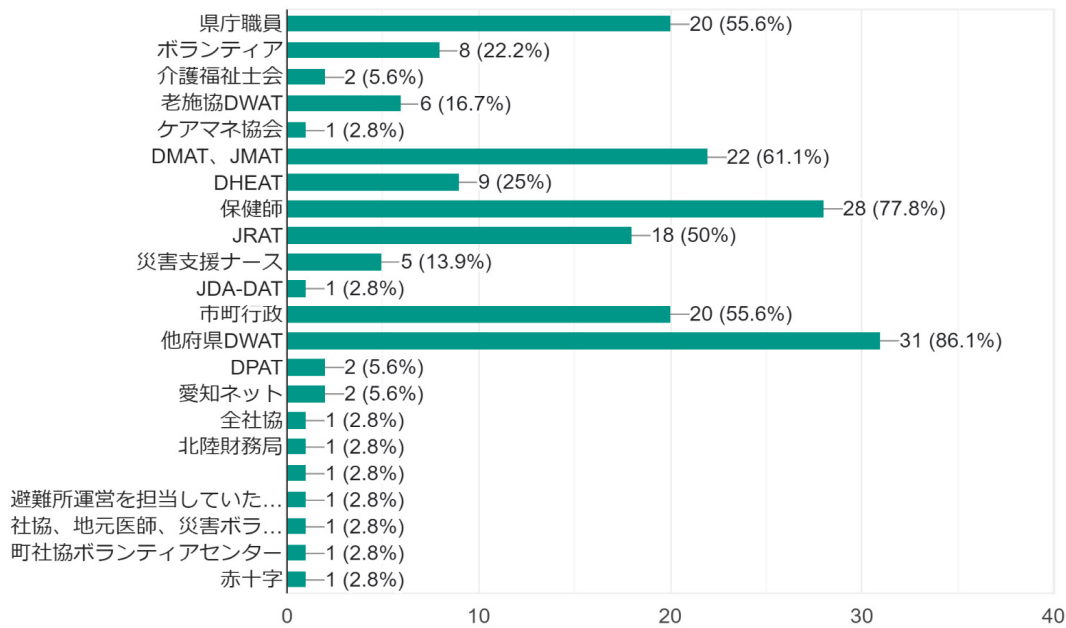
(3)活動期間のなかで、一緒に活動した支援者を選択してください(複数回答可)



(3)-a 同、1月～2月活動者の集計

活動期間のなかで、一緒に活動した支援者を選択してください（複数選択可）

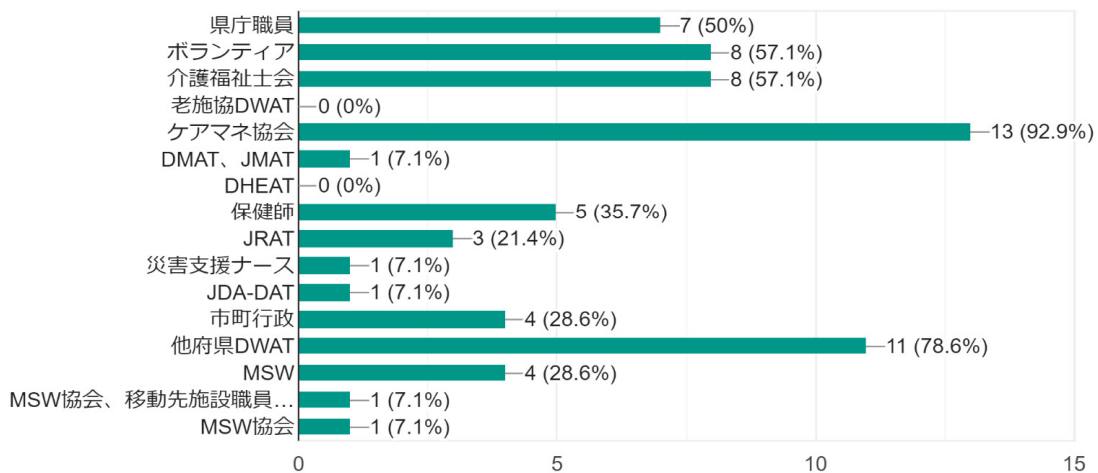
36件の回答



(3)- b 同、4～5月活動者の集計

活動期間のなかで、一緒に活動した支援者を選択してください（複数選択可）

14件の回答



(4)避難者への支援事例がございましたら記入してください。

受付作業、投薬介助、起床介助
・入所の際、居住場所を設定するも、数日生活していく上で、排泄関係、医療処置関係により、居住場所の変更を、他団体と共同し、再設定を実施等
酸素療法をさせている方の居室移動、認知症の方が配偶者を探して徘徊するため都度一緒に探してテントへ戻る、トイレの訴えがある方の誘導(要介助支援か否か事前に確認)、他適時傾聴・付き添い
支援事例と言える程ではありませんが…(自身の備忘録より転記) Yさん(男性、80代) ・1人で無言で避難所内を徘徊。毎日同じ服だが、身なりが整っていないわけではない。徘徊の様子から、知的に低い方と見立てていた。 ・面会の方が来ており、帰り際に近くに居た私たちテント割り職員に「薬が少ないって言ってるんですけど、大丈夫ですよ」と愛想よく笑って帰っていく。その後、徘徊中のYさんと目が合ったため、何か困っているか尋ねると、「薬があと2日分しかない。本当は今日の分を飲んだら1日分なのだが、少ないので今日の分を明後日の分に飛ばした」と困った様子で話した。活舌が悪く、聞き取りづらい。薬のことなので看護協会のブースに聞きに行くと、カルテが無いため保健師チームにカルテの有無を確認してほしいと言われる。保健師に声をかけると、カルテを探してくれるが、確かに数日前に避難所内診療所を受診した記録があるのに、カルテが見当たらない。とりあえず一緒にYさんのテントを訪ねてくれ、残りの薬の内容を確認してくれる。血圧の薬など、毎日飲み続ける必要がありそうなが分かる。Yさんの情報が得られないかとDWATに声をかけると、情報・記録シートを見せてくれた。Yさんは家庭で妻にDVをしていて(いつのことかは不明)、その影響で妻との関係が悪く、Yさんのみ避難所で避難をしている、妻は自宅にいる、という状況のよう。保険証を持っていないかったため番号を妻に聞きたいが、関係が悪い妻に連絡をしていいのか、と悩んでいると、DWATの方から「残りの薬があれば、保険証やお薬手帳が無くても、薬を出してもらえる」という情報を得た。この時点で保健師とDWATにお任せし、香川はテント割りに戻った。後に対応してくれた保健師から、無事に薬を出してもらえそうだと報告を得た。(上記のほか、4名分の記載あり)
テントの案内を行いました。話を聞く。
アセスメントシート作成。
体調不良者の情報連携・福祉相談所の開設・環境整備
シャワーテントに手すり設置、環境整備。 エコノミー症候群予防取組 車中泊者へのチラシ配布依頼、ラジオ体操の導入。 口腔ケア実施に向けて各支援団体との協議
・保健師が実施していたこころの健康シート(K6)、健康状態の問診を避難所の方に対して実施。 ・ラジオ体操定期実施のための立ち上げ ・口腔ケア実施のための調整
直接支援した事例はありませんでした。
弾性ストッキングをうまく履けない方に対して、巡回していただいているJMATの方に相談をして対応しました。 健康体操や脳レクの実施。
①健康体操の実施 筋力低下及び自室への引き籠り防止のため、館内放送やラウンドで避難者の方々に呼びかけながら、10時・14時にシルリハ体操やラジオ体操を実施した。前任者からの引継ぎでA4用紙のシールカードがあったが、毎回参加される方は四つ折りにして保管されていたので数日でボロボロになってしまったり、紛失される方もいたため、少し小さいサイズに変更しながら厚紙に貼り合わせる工夫をした。また、DWAT撤退後も体操が出来るよう、町のトレーナーに現状を伝えながら定期的な巡回を依頼した。 ②関係形成 避難者の方からしたら我々は県外から来た”知らない人”であり、DWATの存在も知らない方ばかりだったので、関係作りのための場を設定しながら「何か困ったことの相談は緑のベストを着た人へ」というメッセージを伝えながらニーズの集約に努めた。これによって小さな困り感も相談に来てくださるようになり、運営や保健師、JMATと協同していくことが出来た。
薬が管理できていないため古い薬が沢山ある人、内服していても血圧が下がらない人をJMATへ報告。 DWAT不在の避難者の情報を保健師から受け取り後日入るDWATに引き継ぎをした。
入浴をされていない避難者に対し入浴の依頼をかけ入浴の実施につなげた
服薬管理ができていない被災者の薬箱を、保健師との情報共有で一部作り直したり、運営の方に夕食時に声かけを依頼したりしました。
直接支援ではないが、環境面のアセスメントをJRATに確認してもらったこと
避難所内の環境整備、健康体操の実施等
健康体操
避難所のラウンド、健康体操の実施、なんでも相談の対応、傾聴
和式のトイレに行ってしまう、上手にできずに便器の周りを汚してしまう方に対して、声かけを何度が行った。改善には繋がらなかった。
受け入れ準備 アセスメント 傾聴。 設備確認(旧土田小学校巡回)
避難所の環境整備。聞き取りから多職種に繋げる。

・他県DWATと協働で避難所の名簿作成 ・血圧測定を介しての体調確認と傾聴 ・保健師のヒアリングから、更衣が長期間できていない避難者への介入の依頼を受ける。着替えを家から持って来られない事情が分かったり、避難所責任者から物資支給所に連絡を取り、受取りに行く支援を行った。他県DWATと協議の上、着替えの介入は未実施。 ・環境調整でパーテーションとダンボールベットを組み立て、避難者と一緒に環境調整をした。
段ボールベットの組み立て、パーテーションの作成、支援物資の整理、避難所の備品の整理、食事配膳の支援、情報収集と共有など
保健師から意見を聞いてコロナ陽性者の居室作りと環境整備
介護支援専門員、MSWと情報を共有しながら支援者の出口支援へ向けて本人の希望に少しでも沿った場所へ決めることができた。
①避難者の親族が来所された時、罹災証明を取る手続きを避難者の代わりにしてくださるよう依頼した。 ②避難者は仮設住宅での一人暮らしを望んでいたが、支援者なしでの一人暮らしは難しい様子であった。MSWも同様な見立てであり、今後時間をかけ本人の気づきを促しつつ、施設入所も視野に入れた自己決定支援が必要であることをMSWと共有した。 ③避難者の親族へ通院の付添い・通院結果の報告を依頼した。 ④夏服を用意してくださるよう家族に連絡・依頼した。 ⑤仮設住宅に入れることが決まり、家族は直ぐに仮設住宅に移ることを望んでいるが、避難者本人は仮設住宅ではなく輪島塗りができる作業場があるところへ移りたいと希望している。本人は高齢であり再び輪島塗職人として仕事をするのは現実的には難しいと思えるが、本人のその思い・生きるためのモチベーションを大切にしつつ、仮設住宅への移住をすすめていくことを家族と共有した。 ⑥避難者との雑談の中で「食事メニューをリクエストをしたい。」との要望があったので、避難所責任者に伝えた。避難所責任者からは、「今は避難所での生活から外に出るための支援するフェーズである。避難者の中にはこのまま避難所生活を続けたいとの声も上がったきている。避難所生活を今以上に快適にするのは不適切である。」との回答であった。避難者には「検討してくれるように伝えます。」と話し、DWAT支援者には責任者の見解を伝えフェーズを共有した。 ⑦JRATが不在の休日に、DWATが代わりにラジオ体操を担当し行うことができた。
他県施設への移行。家族や市町含めて情報共有を実施。
県内の施設に希望の方、ニーズ発見
他施設への移行に伴う調整について、本人、家族、行政、移動先施設職員、MSW協会、ケアマネ協会と様々な情報共有、調整を行った。普段の生活状況等は、現場支援している介護スタッフ等と情報共有を行った。
被災前に同居の息子による虐待があったケース。 介護保険サービス利用はなく包括が定期訪問をしていた経緯あり。 数日後に息子と共に自宅に戻ることが決まった。 介護負担が増すことで虐待リスクが高まる可能性があるとして、避難所にはっているJRATにADL評価を依頼。 MSW協会が中心となり包括と調整を図っていたため、MSWを通じて評価結果を包括に情報提供した。 自宅に戻った翌日に包括による自宅訪問を調整。 また、本人と個別面談を実施。被災前の生活状況や家族関係についてヒアリングを行った。
1・5次避難所で生活している方にラウンドして、今後の意向の確認をした。
サブアリーナが閉鎖する方向で動き出していて、3人に対し、退所に向けた受け入れ先やご本人とのお話を行った。
①1.5時避難所（メインアリーナ）にいる息子さんと福祉避難所（サブアリーナ）にいる母親との関係性の調査 ②他、現状の健康状態等の確認
活動初日の午後に他県の高齢者施設入所についてのzoom面談に同席させていただき、ご本人様、ご家族はもとより、避難所内外の各種関係機関との連絡をおこないながらケースを進めていくよう尽力した。そのうちお一方は長期化した避難所生活に対しての居心地の良さや、地元を離れたく気持ちから意向が不安定になったため、寄り添った姿勢を持ちながら丁寧な説明をおこなった。
避難者の話の傾聴

(4)活動中に印象に残っている出来事がありましたら教えてください。

1.5次避難所では、部屋の割り振りだったこともあり、他県DWATとの連携が全くなかった。そのため、引き継ぎ無しで入れ替わる登録員さん達へ引き継ぎが出来ませんでした。 厚生労働省で派遣された皆さんへの対応について、なんの決め事もなかったこともあり、群馬DWATと派遣されてリーダーとして動いている人と話し合いを何度かしましたが、上手くまとまらないこともありました。その中で、シンプルに分かりやすい方法で、シフトの作成方法や案内する際の伝え方など決めることが出来ました。
認知症避難者対応、ノロ感染者の発生
1.5避難所に先にいる80歳以上（要介護必要）の父親に対し、娘さんとお孫さんが、父も見なければならないが、娘の旦那さんは二日前に亡くなってその手続きもしなければならない。崩壊した家の片付けもしなければならない。でも父を置いて行くことはできない。どうすればいいかわからないと、相談に来たがとりあえず、1.5に入所して2次避難所を探すよう促し入所にはサインするも届けは待ってほしいといい夜まで待つが現れず次の日も父親は1人いる姿をみた、最終日だったので県の職員、看護師、DWATにも相談し気にかけてくれるよう引継ぎをした。
毎日、300人程度の避難者がおり、支援者も100名程度おり、避難者の様子、状態、状況を把握する為に、横の繋がり的重要性を多く感じた
介護支援チーム、DWAT、保健師、看護、JRAT間の連携はあったのかも知れないが、そこに行政や静岡DWAT(受付担当)は入っておらず、情報共用や連携が乏しかった。体調不良者や受診からの退所の方の症状の情報がなく、感染対応が必要か否か毎回保健師に確認していた。
避難者より支援者方が多い。 精神障害（発達??）の方の対応
・身体は元気な認知症の入所者で、帰りたい思いが強く、なぜ避難所にいるかが分からず（そもそも避難所という認識すらできていない方も）、出口から出ていこうとする方が数名いた。入所者用のネックストラップに入っている紙が色で要配慮と識別できるようになっており、受付担当などで声をかけ、出て行ってしまうようにしていた。 ・ADLが自立していて問題ないと思われていた入所者が、話を聞いているうちに色々出てくる（例：DVにより家族の中でその人だけが避難所にいる等）、などDWATより話しがあった。 ・飲食ブースで、「いいよな、ここの生活」と他の方に話しかけている高齢の男性がいた。その方の深い事情は分からなかったが、被災する前の生活が厳しいものであったのかなと想像すると、避難所は飲食や物資をもらうのにもお金がかからない等、居心地の良さを感じる人も思う。この方のように避難所に居心地の良さを感じてしまうと、次の場所に移行するのが停滞してしまうと思われる。避難所は被災者にとって快適に過ごせる場所であってほしいと思うが、こういったことを考えると快適すぎるのはよくないのかもしれないと感じた。
今回、受付補佐的な役割を行いました。行政の方々の様々なご苦労が近い位置で感じれました。その中で、行政の方々の判断の早さや潔さはとても勉強になりました。
受験をひかえていた中学生。教科書も勉強道具もなく、宿泊する。全利用者数から見るとマイノリティですが、何とか勉強ができる準備をして2時避難所へ案内できればと思った。
他県も含め支援者の方々の優しさと支援の心にふれることができました。 被災された方々が口々にお話ができて良かったとお話されており、巡回の大切さを感じました。
他県DWATとの共同活動。長く活動している他県DWATとの差を感じながらの活動だった。 発災から3週目の活動期間で、避難者メンタル面が心配だった。
・DWAT活動を知っている行政職員の方が、積極的に情報提供をしてくださった。 ・避難者の中に地域の健康体操指導をしている方がいたり、ケーブルテレビの健康体操を普段から見て実施しているなど、普段から動く意識のある高齢の方がいらっしゃり地域性を感じた。 ・県によりDWATの体制が異なることを知った。体制の違いによる協同体制の取り方を意識する必要があると感じた。
他県DWATとの関わりががとても印象に残ってます。1回目の活動でお世話になった熊本DWAT、2回目の活動で関わった北海道DWAT、愛知DCATの方々、特にリーダーという立場での関わりで、他県のDWATリーダーにとっても教わる事が多かったです。 宿舎が一緒だった青森DWATとはとても密な情報交換が出来ました。
熊本DWATの前田さんと一緒に行動させていただく機会がありましたが、ご利用のニーズを洗い出し、それを各専門職や行政と連携して実現していく力…そのプロフェッショナルな姿を見て、沢山学ばせていただきました。
他県のDWATの方と色々情報交換ができたことや、避難者の方と日々コミュニケーションをとることで徐々に打ち解けて、始めの頃は聞けなかった話が聞けたことです。 健康体操を実施する際、地元のシルリハのインストラクターの方も協力して避難者支援ができたことです。
活動に入って一番印象的だったのは、日本全国から様々な団体が支援に入りながら協同していた場面を目の当たりにしたことです。一つの目的に対して、密に連携を取り合いながら互いの情報を交換し合い、多方面でアプローチをしている様子は圧巻でした。入る人が代わったり、流動的な流れでありながらも混乱せずにいられたのは、この連携がうまく働いていたからだと思います。
避難者の食事について 食事は沢山あるがおにぎり、パンなど保存のきくものばかりで避難者の声から「野菜が食べたい、魚が食べたい」という意見を聞くことができた。 実際には私たちも似たような食生活で短期間でもストレスを感じていた。 関わらないとわからない課題を知ることができた。 また、避難所は高齢者や貧困、身内の少ない人など社会的弱者が多く残っていると現地で感じた。 そういう人ほど避難所が閉鎖した後次の問題が生じてくると思う。
避難者の多くが静岡DWATを受け入れてくれており、ありがとうや頑張っってなど励ましてくれました

活動最終日、近くの入浴施設が休業でバスで行かないといけない...というとき、登録員と避難所が自然と集まって路線図を見ながらあれこれ話をしていました。小難しいことは抜きにして、これこそ被災地支援のあるべき姿だと思いました。
他県DCATで役割の整理を行うこと。他機関との連絡調整をしっかりと行うことは大切だと思った
派遣最終日に避難者の方より「もう帰っちゃうの、せっかく顔も覚えたのに寂しくなるよ。」とお言葉を貰ったときはとても辛い気持ちになりました。この方の為に何か出来たのだろうか？寄り添うことが出来たのだろうか？という思いが強く残りました。
町職員、他県DWAT、他職種、センター管理者等多くの支援者との連携、支援者とのコミュニケーション
役場でのミーティング、入る情報が矛盾したり話が変わるなどが常に起こっていた、他の団体との考え方の違いにより方向性がかわってしまうことがあった
北海道DWAT 滋賀DWATは、引き続きで重なる期間が無いにもかかわらず、支援初日より活動の把握をしておりの確な支援が出来ていた所が印象的でした。
愛知、滋賀DWATが避難者と築いた信頼関係を情報共有ができずに他の団体に関わり崩してしまったこと。 避難所の方との日々の会話
避難者の方々は、随分悩んでいたが誰に相談して良いのか苦しんでいた。
避難者含め 支援団体など多くの方との出会い。 伝達、報告、申し送り。 他県DWATや行政の方々と積極的なコミュニケーションが1番大切だと思った。 自分からアクションをかけ共通目的である事を知って欲しかった。
災害前から介護負担を抱えていたところ、災害により避難所生活になり、介護負担が増加してSOSをだした女性
経験豊富な他県の方々の展開の速さや想定するいろいろな問題が次々にでてくること。あまり支援が入っていない避難所の現実。
不活発な様子が見られていた避難者の方々が、ダンボールベットやパーテーションを組み立て始めたら積極的に参加され、子供達も大人と一緒に声を掛け合いながら取り組まれていた光景が印象的だった。
他県も含めてDWATの皆さんの熱意や行動力が大きくとても励みになりました。また、看護師ボラ、散髪ボラ、自衛隊や消防師など様々な職種の方が全国各地から集まって精力的に活動されていたのが印象的でした。
コミュニティセンターの管理者が中心となっており一人でなんでも請け負っていて疲れている様子がみられていた。 避難者で糖尿病の方がいて保健師、看護師、医師などいろいろな人が同じようなことを聞かれて本人はちょっと疲れ気味の様子が伺っていたことが印象にあり情報が一目で誰でもわかる事が出来たらと思いました。

(5)今回の活動の感想を自由に記入してください。

正直、保育士として必要とされる場面がなく、行かせていただきましたが、私が必要なのか、保育士はこういった場面での必要性を感じなく、色々と考えてしまうことが多かったです。 ただ、行かせてもらい熱海派遣とは違う活動内容で、正直私じゃない方が…と思うことが多々ありましたが、とても貴重な経験をさせていただけたと思い、派遣へ行かせて貰えたことに感謝しています。
避難所受付にて、避難者の入所テント割り振り作業をさせて頂きました。熱海支援とはまた違う活動を経験させて頂き、大変勉強になりました。改めて、まず何よりも避難者に寄り添う事の大切さを実感致しました。
土台が1〜2クールで出来ていたので引き継いだけ第3クールは何も大きな事は起きなかったが、第4クールからさらに仕事内容が増えて拘束時間が長くなって酷だと感じた。
熱海の派遣とは規模も状況も違った。また、熱海の際は初めての派遣であった為、自分のやるべき事で精一杯であったが、今回の派遣では、自分の後に派遣される静岡DWATの登録員が、活動しやすくてできるようにと、微力ではあるが考えることができた。
受付担当ということもあり、DWATとしての活動が出来たか不明だが、支援チームが多数いたなかで役割を全うし、更に自身のもっている知識等で多少は行政と他チームを繋ぐことが出来たと感じた。また、活動ブースの特性上、多くの避難者や関係者と関わって必要な支援・サポートが出来たのではないだろうか。非常に貴重な経験をさせていただいた活動期間となりました。
災害によって活動内容が異なる。 複数団体に関わる時には横のつながりが大切。 横のつながりをしっかりとするためには各団体のリーダーが問われる。
テント割りという役割、そして1.5次避難所という場所のため、入所している方々とお話はできても、深く関わることはできないことがもどかしかったが、テント割りは大事な役割であること、その大事な役割を静岡DWATが任されたことの重大さをオープンチャットで事務局の皆様や鈴木先生から改めてお話いただき、今回の自身の活動に自信が持てました。また、活動中、時間にゆとりがあったので、避難所の中の様子をゆっくりと見る事ができました。そして、ベテランの登録員の方に活動期間を挟んでいただいたので、たくさんお話を聞くことができました。現地での活動が初めての私にとっては、恵まれた機会であったと感じます。
今までとは違った角度で避難所がみれ、とても勉強になりました。(受付という立ち位置や1.5という場所)
学び多い時間でした。DWATの意見を聞いてくださる環境で活動できたのは、ありがたいことでした。

1.避難所とは違い落ち着いた環境でしたが、その中でも次につなげるため関係機関との会話、調整が難しかった。またリーダーとして動けていないと反省しています。同じクールの鈴木さんのおかげで何とやれた(いれた)気がします。福祉ニーズと言っても保育士よりやはり社会福祉士など、高齢者関係に携わっている登録員や知識として前もってあった方が良いと痛感しました。
初期の方に派遣されたこともあり、やり残したことが多かったような気がします。以後も派遣されると思っていましたが、今期は難しいようです。DWAT登録員の必要性がもっと認識されることを願っています。(私自身の力不足なのかもしれませんが…)
同じ静岡DWATメンバーでも初対面の方との活動だった。短い時間だったが、自分たちが話あって決めたミッションは実施することができた。
初めての県外派遣、ホテル避難とは全く異なる環境で戸惑うことも多かったです。活動終了後に、もっとあすれば良かった、こんなこともできたのではないかと、という気持ちが残ります。宿泊がゲストハウスということで、一緒に活動する静岡の仲間だけでなく、他県の方たちとも交流する機会が持てたことがとても良い環境でした。オーナーも色々配慮くださり、とても有り難かったです。
とても自分の財産になる経験をさせて頂きました。普段の業務とは違った内容、普段では関わる事が出来ない方々と一緒に活動出来たことが、今後の自分に活かせればと思います。
二つの避難所に行かせていただきましたが、一箇所目は熊本DWATが入り、混乱期を経て安定した状態に作り上げたことがよく分かりました。二箇所目では静岡DWATの窓口が立ち上げとなり、一箇所目での取り組みを参考にしながら主体的に課題を見つけて動いて行かなければならないのだと責任感を持つようになりました。4日間があつという間すぎて、何も完成せずに終わってしまった感、まだまだやり足りない感があります。それでも次の静岡DWATのメンバーが自分よりもきっと上手く引き継いでくださると思いますので、安心して終了することができました。
活動初日に活動を行う場所が変更になったが、前のクールの方や一緒にのクールの方、後から来たクールの方の協力のおかげで無事に活動を終えることができて安心しています。引き継ぎ期間もしっかりと確保して下さっていたためとても助かりました。その反面、活動を通じて自分自身がDWATとしての役割を果たせたのか？といった気持ちではあります。まだまだ経験や勉強不足を感じました。
昨年度、DWAT登録員研修に参加させていただいたばかりですが、このような機会を与えて下さり、ありがとうございました。今回、実際に被災地へ赴き、被災の現場を目の当たりにしながら被災に合われた方とお会いし、各種様々な機関が支援をおこなっている現場に立ち会わせていただいたことは、とても貴重な経験となりました。鈴木先生がおっしゃっていたフェーズの動きについても体感でき、支援に入る時期による活動の違いや課題についても知り得ることができました。
派遣前は不安でいっぱいでした。情報も少なくこのまま行って大丈夫かとも思いましたが現地に着いたらそういった不安は全て解消されました。DWATのメンバーが迎えてくれる同じ気持ちの人たちに支えられて助けてもらいました。当初7人同じ部屋で寝ることも心配でしたが同じ部屋で休むため夜遅くまでメンバー同士で色々話すことができ個室より一体感が生まれました。とても良い経験ができました。
避難者の対応を支援する側が緊張して実施するのではなく明るい対応が第一だと感じます。配慮は本当に些細なことで、あまり神経を使いすぎるとお互いが身構えてしまいます。
登録員研修やそれ以降の研修も実践ではあまり活用できなかったように思います。今回は特に出口支援、他職種連携が多く、交渉や調整もありました。派遣前のイメージとは大きく異なっており、登録員も戸惑いと試行錯誤の活動でした。
はじめての活動でうまく行かないことなどもあるが、こちらが不安を表出したらほかの人たちにも影響が出てしまうため、自分のできることやって行かなくてはいけないことを周りと確認し合いながら行えたかと思います
被災地に入ることは初めてでとても緊張していました。一緒になったメンバーに助けられ今回の派遣を無事に終えることが出来ました。発災してから1ヶ月半後の派遣だった為、避難所は落ち着いた様子でした。発災直後に派遣された方の苦労は並ではなかったと思います。現地で見えたこと聞いたこと感じたことは、今後の生活や仕事の糧になると思いました。
様々な機関、職種と連携を取りながら、その後に向けての支援をしていく事の難しさを感じ、被災地の方に対して支援においても自分は何が出来たんだろうかと日々考えさせられる毎日だった。
文化ホールの平日日中は、避難者の人数も10名程度とかなり落ちついた状況でした。要配慮者の人数も少なく、積極的な関わりが必要な状況ではありませんでした。富来活性化センターでは、断水が続いている状況もあり、避難者が多く、避難所内の把握（各部屋の定員、現員、要配慮者数、日中の所在者数）をDWATもリスト化して実施しているなど、各避難所で課題となっていることの違いを感じることができました。

市町の行政や他の団体との話し合いなど、自分にはできそうになかった。一緒に行った方が対応してくれたためなんとかあったが、自分では判断できなかった。避難所にいる方の情報がとても少なく、何を支援すれば良いのかわからなかった。避難所の閉鎖等大きな動きがあり、引き継ぎもしないといけないため巡回に3名行ってしまうため、後半は1人でなんでも相談のブースに残る時間が多かった。ブースを空けることができないため、よく来る一名の方のお話はたくさん聞けたが、支援が偏ってしまったのではないかと、これで良いのだろうかと感じた。DWATが何をするのかはつきりしておらず、市町の方々もわからない様子だった。他県のDWATは自分たちは普段介護をしている団体であり、介護をするために来たと市町の方に説明しており、自分は介護職ではないため、経験もノウハウもなく、介護をすることになったらどうしようと混乱してしまった。健康体操は前のクールの方々のおかげもあり、避難所の方が積極的に参加してくれる様子があり、体を動かすと良いねと笑顔で言うてくれて楽しくできた。巡回で数箇所の避難所を見て回ったが、配られる食品に差があると思った。ビタミン類を摂取できる野菜がとれるものは野菜ジュースくらいで、豆類などが入ったスープが置いてあるところもあった。ビタミン、ミネラル、食物繊維は不足、塩分や糖分は過多になってしまったらうと思った。野菜ジュースやスープを食べようすすめたが、最初は飲んでいたが、さすがに飽きたよ、という声があった。最終日にカレーの炊き出しがあったが、レトルトのものを温めたもので、避難所の方々はレトルトの味には飽き飽きしており、野菜が食べられると期待していただけにがっかりしていた。電子レンジやポットはあるため、温かいものは食べることができているので、意味があまりない炊き出しになってしまったと思った。1ヶ月経過した被災地では炊き出しの役割としては温かいだけではなく、レトルトなどでは不足してしまう栄養素を補えるようなものであることが必要だと思った。
私は、同クルールのリーダーが責任感ある方だったため、あまり負担は感じなかったのですが、リーダーは、かなり精神的にキツイ役割だったと思います。
今回活動を通して、沢山のことを学ぶことができました。まだまだ被災地には支援が必要だと感じました。一つの避難所で様々な人が生活されるため、DWATのアセスメント、他機関との協力は必須になってくると改めて思いました。また、活動終了後のことも考えて、地域との繋がりを意識して動いていくことが難しかったです。DWAT内でも、行っていることの違いが出てきてしまった場面があると思います。統一していくことが大切だと思いました。力になれないのが多く、時間が足りないなと思いました。
やり残した事、その後の事が気になります。 再度派遣要請あれば今回の経験も活かして再チャレンジさせて下さい。 やはり避難者が気になります。 個人情報など少なくてアセスメントなどは、ほぼ聞き取りだったので。もっと避難者の、ために出来たことではないかと感じます。
初めてDWATが七尾市に介入するというタイミングで活動に参加させてもらった。熱海での経験はあるが、活動が落ち着いてからの派遣、ホテルが避難所となっている場面での派遣であったため、初めての経験が多かった。 静岡県だけでなく、他県と関係性を築きながら、また、保健師さん達の信頼を得るための関わりを持ちながらというところに意識をして活動を行なった。関わる人、団体、期間が多くなればなるほど、丁寧な情報共有、関係機関との連携が必要になると感じた。
始めて実際の支援に入り他県の動きにひたすら着いて行くのみで終わった感想でした。無力な自分に情けなかった事、思ったらどんどん行動に移さなければならぬこと予測される予後等、刻々と状況が変わる中での判断のスピードの重要性和ひらめきの必要性を痛感しました。 こんな感じということは、勉強出来たので次はこの無力感を達成感に変えて支援に付けるといいと思っています。
他県の保健師の方々と、現場でタイムリーに情報共有が出来たことは、早い気付きへ繋がったと感じる。
避難生活が大変な中でもお互いに助け合いながら支え合っている避難者の方々の姿に感動しました。その中で自分に何ができるか不安でしたが、同じタイミングで被災地入りしたDWATの方々に助けられ無事に活動を終えることができました。まだ活動を続けたい想いですが、静岡に戻って自分にできること、DWATの活動を広めていくことをしていきたいと思います。
私の知識不足かもしれませんが、他県に引き継ぐとき、支援者のアセスメントが統一された用紙があったらとおもいました。
今回は2回目の活動になりました。 前回と違い多くの避難者を静岡から一人で支援をしていく中で情報の引継ぎや共有の大変さを感じました。 しかし一人だからこそ他のDWATやMSW、ケアマネと話し合いをする機会が多く連携をしっかりとすることはできました。
①目の前にいる避難者への対応も大切であるが、フェーズに即した支援課題の共有が必要であると思った。事前のオリエンテーションによるフェーズ・課題の共有は必要である。 ②多職種連携の必要性を平常時以上により感じた。
・避難所の閉鎖が決まっており、毎日退所者がいるなかで、引継ぎの大切さを感じた。活動期間が短いなかで、効果的に活動するには、どのような引継ぎをしていくと次に繋げられるかこれからも考えていきたい。（自分達には前クールからの引継ぎがほとんどなく、また初めての派遣だったので、何をすればよいか困惑しました。） ・支援団体が多く、人が溢れている状態だったため、しっかりと役割分担と情報共有の必要性を感じた。 ・自身のソーシャルワークの力量不足も感じ、もっと勉強しなければいけないと思いました。
当初想像をしていた避難所生活とは違った部分が多く、特に避難所から動けない方々は通常の包括業務の相談に近い印象でした。元々の生活様式が個々にある中での罹災という状況が更に家族関係に変化をもたらし、次へのステップへスムーズに移行できる家族との差が生じていると思いました。
静岡最終クールであったが、1月、2月の最盛期は苦労があっただろうと感じた
出口支援ということもあり、多数の関係者との接点を持つことができた。勉強になることが多かった。

1月に志賀町避難所での支援活動に携わった時とフェーズや環境の違いを前提とした上でも必要とされる活動が全く異なり、臨機応変な対応力が活動のベースになると感じた。 避難生活が長期化する中、1.5次避難所という特殊な避難環境では高齢者支援が中心となることは予め予測できていた。 しかし、具体的にどのような対応が必要かは日々変化していくため予測対応が困難であった。 地域に戻るにあたり、避難所から離れた地域の社会資源と連携を図る必要があるのは1.5次の特徴と思われる。避難所内外の機関とのコーディネート役が必要となることを感じた。
丁度、動きがない時期にあたり、これといった活動ができなかったことを残念に思います。 特に動きがない時期の、連携についてとても難しく感じました。また、避難者の情報共有についても、もう少し一元化できないか感じました。
出口支援の難しさや、情報収集の仕方、チーム連携の大切さを感じる活動となった。
初めての参加で緊張と共に、他県のDWATとも初めてで実際の動きを体験できたことは大きかった。金沢での活動であったが、終了後、同僚と共に奥能登へ車向かい、現状を目の当たりにし、ただ驚きの連続であったため、事前に被災地をみられたらまた変わった支援をできたのではと感じた。
福祉避難所の体制は、医師・看護協会・ケアマネ・MSW・介護支援専門員・DWAT・ボランティアで構成され、かなりの人数が配置される。ただ、自分たちのクールではすでに落ち着いてはいたが、その前は100名おり、その一人ひとりのケアや出口支援について同時に多機関の人が関わり、情報が錯綜して交差して、伝達するだけでも大変だったみたいです。 DWATは出口支援をお願いされたのですが、実際は本人と面談をしながら本人のADL調査などやヒヤリングなどを行ないその状況をMSWへ伝え施設調整を行い、支援方法を模索し関係機関とつなげ、それをケアマネが総合的に包括的に取りまとめて、2次避難所もしくは自宅や仮設住宅へ戻して、ケア体制を確立するという流れとなっている。 また、福祉避難所に設置してあるいろいろな器具や張り紙などや申し送りに使われた資料などを見てかなり勉強になった。被災したらこのような方法で伝達したり、情報を取りまとめたりするんだという事を学びました。 また、専門的な知識や経験を含め、被災地支援をする専門職の普段からの仕事が見れることで、気持ちで仕事をしている。という気迫が感じ取れ、非常に刺激になりました。 ここでの経験や知識や資料を今後生かしていきたいと思います。このような機会を頂きありがとうございました。
先ず、DWAT活動で貴重な経験をさせていたことに感謝申し上げます。前回の二次避難所とはまた違った役割があること。退所支援に向けたケースワークについての学びを多く得ることができました。 前回は二人ペアでの活動でしたが、今回は一人での活動に不安も多くありましたが、事務局の方々をはじめ、県短の鈴木先生から助言や温かいお言葉をいただき、勇気づけられました。 今後も静岡DWATの一員としてスキルを上げていきたいと思っています。
今回の派遣活動で今後の活動に生かしていきたいと思ったことは、ソーシャルワーカー、ケースワーカーとして、非常時にどのように福祉的課題を持ち合わせている人を見守る体制を作るかということや平時から確認することが必要であるということです。今回避難所で出会った方々の中には、災害の為に元の生活に戻れないということではなく、災害の前から課題を抱えており解決されないまま（そのまま様子見のまま）災害に遭遇し、脆弱した部分が露見してしまったというケースも少なくはなかったのではないかと感じました。いかに、日常的に福祉サービスの提供をするのか、支援者として非常時にはどのような生活をみてるのか、平時から取り組んでいく事が大切であると感じました。すみません、DWATとは少し離れました。

(6)派遣終了後、所属施設や関係機関、地域等に対して今回の活動の報告や周知をされた場合

(予定を含む)は、その内容を教えてください。

今回のことを色々な皆さんに話をしたいと思いました。 入所の割り振りから色々なことが 1.5次は色々な事がしっかり決まっていたこともあり、運営で大きく混乱することは無かったの で、とてもスムーズだと感じました。 これを施設でも、テントの配置や、体調不良者が出た場合どうするのかなど、何かあった時にその時にどうするのか考えるのではな く、前もって決め事など具体的に話が出来たらなと感じました。
社内の経営会議で報告しました。また、県の老協会議でも報告しました。今後、別の職員が派遣されますので、戻りましたら社内 全体集会にて2人で報告会を行う予定です。
自分の活動内容、その時の思い、今後の派遣に向けて、自分の施設で災害が起こった場合、今回の派遣をどのように活かすか等
・県内児童家庭支援センター4事業所で集まり（オンラインかも）、活動報告をさせていただく予定。 ・法人の広報誌に掲載するかもしれないとの事。
法人内活動報告 予定 中日新聞1/18取材 報道日不明
静岡支部済生会 へ活動報告を簡単にする予定です。
法人に出張の報告をしました。DWATの報告書同様の内容と沢山の写真を付けて報告しました。
DWATの説明、DWATからのメールを使い時系列説明、写真を使い被災状況説明、支援場所の説明、活動した事柄を支援団体別に説明、 宿泊先の説明をパワポにまとめた。 写真を多く使った。
活動終了翌日に障害者自立支援協議会の職員向け防災研修があったため、写真掲示を行った。
法人支部へ施設長を通じて、活動内容と活動の様子の画像で報告しました。
自施設の職員会議で活動報告をしようと考えています。
施設内では活動をした内容（実際に行ってきたこと）を報告しています。
①法人内活動報告会（1月31日） ②県養施設長会（2月8日） ③青年会議所関係者向け活動報告 ④児家セン職員向け活動報告 ※①～④まで、DWATについて及び第9クールの活動報告
具体的には決まっていますが上司から発表してほしいと話を受けています。
来週周知予定
これから施設内での報告に加え、地元災害関係団体、自治会への周知を行う予定です。
今後、自立支援協議会で行う予定
活動報告書の提出 施設長等への口頭での報告等
所属施設での報告、DWAT中東遠地域登録者派遣参加者との情報共有。
1日の流れや実施したこと、感じたこと等を報告書にまとめ、提出する予定。
私の判断での参加でしたので、所属施設では、報告などはしませんでした。
1. 地元の包括支援センターでの現地に行って感じた事や今後、地域で災害が発生した場合、まず施設間の連携が必要になる為、どう したら良いか？ 2. 島田市社会福祉協議会でも災害に関するプロジェクトが立ち上がり、今後の活動について
職員へ全体集会での報告。 ホワイトボードを正面玄関に設置し写真やメッセージを掲示して活動報告を行う。 玄関なので色々な方々に見ていただける。
DWAT事務局からの報告書を回覧して、報告とした
東遠地区自立支援協議会重心部会、東遠地区自立支援協議会相談部会、自主企画で中東遠圏域DWAT対象としたミニ報告会、身体障害 者施設協議会研修
施設内での防災委員会で派遣の内容を伝達研修をすることになりました
・所属施設職員に、避難所の様子や関係機関との連携について報告を行った。 ・地域の消防団の方々と情報共有の機会を持つ予定
所属施設にて、研修の枠でDWATの活動報告をする予定です
介護福祉士の災害支援の会議に周知しました。
包括支援センター主催の民生委員との交流会で災害支援について話しをする予定です。 内容は実際に災害があった時の支援体制と支援の報告です。

①所属する市の相談支援部会で活動報告した。 ②今後、市の福祉部や社協や福祉事業所と情報共有をして被災時の対応について事前に備えていきたいと思う。1.5次避難所の運営はイベント会社に託されていた。避難所やボランティアセンターの運営は被災地の行政や社協の負担とならずにすむように他の方法を考え備えておくように提案する。 ③報酬改定に伴い、各福祉事業所では事業継続計画を立てることが求められている。DWAT活動の周知と連携を求める良い機会であると思う。
R6.9.5 第13回静岡県高齢者福祉研究大会において、施設（社会福祉法人）の災害時の取り組みの発表の一部として活動報告を行う予定です。
所属施設にて、静岡DWATの活動及び、自身が活動した期間の内容報告
施設の防災委員会に所属しているが、委員会で活動報告を行ったり、社協から出していただいた報告書を回覧する等行った。
夏に函南町基幹相談支援センター研修として報告予定
所属施設：実際に行った活動、避難者の状況・介護状況、今後、当事者になったときの対応方法についての検討。
静岡DWATの活動内容や避難所の状況について、施設の主任・管理者の方に報告をした。
所属法人へ報告を実施。また職場の同僚に状況や活動内容を説明。被災地支援を希望していた職員もいたため、帰りに寄り、状況を聞き取り、伝えた。
○福祉協会のほうへは報告をしました。
法人職員に対して職員会議の場で今回の活動報告をおこないました。
1月の派遣活動においての活動報告の依頼は複数件ありましたが、4月の派遣活動移行は能登半島沖地震での災害派遣の活動内容について1件、依頼がありました。（実施済み）

(7)派遣活動全体を通して、意見や要望、気づいたことなどがありましたら教えてください。

今回も細かな配慮ありがとうございました。

- ・保育士枠は、必要なのでしょうか？
- ・厚生労働省の派遣の受け入れ方法や案内の内容・勤務時間な前もって受け入れる前に、話し合いを行い決める時間があると混乱しなかったかと思いました。
- ・日報アプリは、前もって研修などで事前にやり方を教えて頂けるとありがたかったです。

災害時にいつも感じるのですが、事務局の皆さんはいつもフットワーク良く迅速に対応と活動をされ、とても尊敬しております。今後も体調に気をつけて無理だけはしないようにしてください。ありがとうございました！

熱海の派遣の時は、前任者との重複日が1日のみであったが、今回は1.5日あり、また、派遣避難所も1カ所であった為、引き継ぎが充実できました。ご配慮ありがとうございました。

今回のように多数の他県DWATや支援チームが入り特定の役割を降られた際は、自分達の目的や活動意義に固執せずに柔軟に対応し、その中で自分達(静岡DWATとして)の視点で得た情報の共用や提案をしていけば良いのかな、と思いました。鈴木先生や事務局の皆様におかれましても、現地での活動・調整や遠隔での調整・サポート、大変お疲れ様でした。お陰さまで安心して活動を行うことが出来ました、心から感謝申し上げます。本当に有り難う御座いました。

オリエンテーションの案内が来ておらず参加できなかったこと、滞在するホテルの様子が行ってみるまで分からなかったこと（ホテルのHPにも詳細が載っておらず…）、など不安がある中での出発になりました。事務局の皆様も大変な中だったと思いますが、質問にはすぐにご対応いただけてありがたかったです。登録員同士がもう少しつながりを持てると、登録員同士のやりとりなどで解消できることもあり、事務局の皆さんの負担を軽減できるのではと感じました。皆さんに感謝します。ありがとうございました。

実質3.5日の活動でしたが、慣れた頃に離れてしまったので、もう少し活動期間が長くても良かったかなと思いました。

他都道府県DWATとの活動内容について相違がある場合の対応方法。
事務局さん、ありがとうございました。活動しやすかったです。

事務局の方々に大変にお世話になり、感謝しております。
オープンチャットは便利なツールではありますが、情報が溢れているようで、どのように動いて良いのかわからないことが度々ありました。

事務局さんは大変な中ありがとうございました。人員配置、調整、現地との調整など莫大な業務、スムーズに対処していただいたと思っています。
各県DWATにより温度差というか、思い入れの違いを感じました。いい悪いではなく、被災者側からだ、長期でお互いに顔が覚えられる関係作りも安心材料なのかなと思いました。

オープンチャットがあることでリアルタイムに情報交換、報告ができ良かったです。
派遣終了後も様子がわかるので、皆さんの活動が見え励みになります。
事務局の皆様ご多忙中、細やかな配慮があり安心して活動することができました。
ありがとうございました。

今回、とても貴重な経験をありがとうございました。他県DWATと情報交換の中で、他県の社協さんでは宿舎に事前に活動に必要な機器や備品、食料品、マスク等を送ってあったり、活動中に必要な携帯電話の支給、前もっての最寄駅からの往復切符を送ってもらったという対応があるそうです。
宿舎に関しても、1月是他県DWATと宿泊場所を共にすることで情報共有が出来ましたが、普段定員5名の場所を10人以上で利用したり、カメムシが大量発生している衛生面であり良いとはいえない環境でした。他県が環境的に引き上げた後も静岡県だけ残ったことも検討して頂ければと思います。

ゲストハウスは他県DWATさんとも交流できて良い環境でしたが、街中ではないため積雪量も多く、通常よりも事故や怪我に繋がらないよう気を遣う必要がありました。

宿泊施設ですが、一緒に活動をする皆さんとたくさん話ができるのは良いが、部屋が相部屋となるため、オン・オフの切り替えができず、気を張り詰めている状態でした。（あくまで個人の意見です）

日々、更新される情報（オープンチャット）に目を通していただきながら的確な指示や情報を降ろしていただき、活動しやすかったです。事務局の方々はこの1ヶ月、ほとんど休みなく活動されていて頭が下がる思いです。ありがとうございました。

オープンチャットをみて情報を集めて欲しいと言われることが多かったのですがイメージもでき体内状態でオープンチャットをみてもあまりよくわかりませんでした。
忙しいと思いますがもう少しメールをいただくと安心できたと思います。

今回の派遣は私にとってとても勉強になることが多くありました。私のクールでは県は違いますが、青森、熊本、愛知のDWATと宿で共有しながら何とか石川県の復興の手伝いがしたいと思う心を持ったスタッフの集まりとなりました。
避難地は1日1日変化があるため情報の共有の難しさはありますが、まずは1歩1歩前進できるように努めることが大事であると感じました。
派遣により良い経験と良い仲間づくりができたことに感謝します。

オープンチャットが派遣前で情報が薄い登録員にはつかみづらいように思います。自由発言と並行する形で、毎日とは言わなくとも、定期的に現在の動きを整理してまとめて送る等の工夫があるとよいかと思います。 また、最近では活発になりましたが、クールごとに4日間の方向性などを総合的に示す、やることをある程度明示する...などコントロールしていくことも必要かと思います。ZOOMも活用した方がよいかもしれません。現地ではどうしても視野が狭くなりがちなので。 そして、日報、アセスメント、地域リーダーの記録提出を求める以上は、それに対する反応を上からもある程度はおろしていかない(やりすぎると逆効果ですが)と現場のモチベーションが保てないと思います。 いずれにせよ、事務局だけでは手が回らない現実はあると思うので、現地外からでもとりまとめて事務局と繋いだり、現地の相談にのったりする登録員が公式な形でいいのかなと思います。ただ、現地の肌感覚でしかつかめないこともあるので難しいですし、みなさん通常業務もあるので...どうですかね。派遣が終わった後に気付いたことがあってもオープンチャットで発言するのは、現地で頑張っている方に介入するみたいで、なかなか難しいです。
宿へ行くまでのハプニングなどもありましたが、丁寧に対応をしていただきました。 宿にカメムシが多く、こちらに戻って来ても壁や床に黒っぽいものがあるとどきどきします。最終日に靴の中に入ってしまったで大変でした
初めて派遣させて頂き、とても良い経験をさせて頂きました。 健康体操を実施することが多かったですが、歌を歌うことを追加で実施しました。荷物が多くなってしまうかもしれませんが高齢者の方が知っている歌の歌詞を集めたファイルがあると皆さんで歌えていいかもしれません。曲は知っているけど歌詞がわからない、一番以降を知らない等の方がいらっしやる為です。 歌を歌うことで顔の筋力も使えますし、何より笑顔がみえることが多かったです。
被災地の現状を知ると共に同じ仲間や地域へ繋げる事の難しさと大切さを学ぶ事が出来た派遣活動でした。ありがとうございました。
静岡DWATが地域リーダーとして活動しているとのことでしたが、メンバーから見ていると、リーダーの地域リーダー感が正直薄いと感じました。全社協とのミーティング前に、静岡県社協との打ち合わせの時間があったといいかと思いました。
お互いに報告を密に行い、その時々でDWATとして何をすべきなのか、指示をくださるとありがたいです。これで良いのかなという不安は常に感じていました。シフトを組むのが大変だとは思いますが、引き継ぎに1.5日しかないのは短く感じました。移動日はもっと早く到着して少しでもミーティングや説明等をする時間をとった方がよいと思いました。翌日から何をするのかわからないと不安なので、結局長時間移動した後に夜遅くまでミーティングすることになってしまうためです。また、今回のゲストハウスに行くまでが暗いとわかり辛かったため、明るいうちに到着できるほうが良いのではと思いました。リーダーが毎日夜遅くまで日報等を打っている姿があり、もっと簡単、簡潔に入力できたらと思いました。 毎日遅くまでお疲れ様です。とても良い経験になりました。ありがとうございました。
活動参加した皆さん知識豊富で機転が効く方々で、ついていくのが精一杯って感じでしたね。もし新人頃の福祉職員で参加だったら挫折感感じただろうと思います。 経験値の少ない方が参加希望の場合には特に知識や精神的サポートが必要に感じました。
地元のキーマンとつながることができた。DWAT主体の支援から地元主体の支援への引き継ぎの見通しが持て、クールのミッションを達成でき良かった。
何度でも呼んで欲しい。 何度でも支援に行きたいです。 やり残した事ばかりがあります。
今回のように多くの機関、団体、人が関わるとなると情報の集約、管理、活用ということが必要になってくると感じた。色々なツールを活用して情報を整理することが効率的で有効であると感じた。
現場が動きやすいように登録員のことを一番に考えてくださっている事がよく、わかりました。登録員より事務局が苦勞され派遣が回っているとかんじました。いろいろとありがとうございました
事務局の皆さまには、いつも丁寧な対応いただき感謝致しております。事務局の方が倒れないか心配です。 一点、レンタカーでの移動時に、能登方面に向かう場合は、事故を起こした時の補償は無いといったニュアンスのメモにはちょっと困惑しました。
DWATの活動として避難所の見取り図を作成しましたが、看護ボラとして現地入りした方も同じような見取り図を夜間に作成されていたため、活動内容が重複してしまったことがありました。活動時間が違っていたため連携が取りづらかったのですが、上手に連携がとれたら良かったと思いました。事務局の方は臨機応変に対応してくださり、とても助かりました。
派遣可能な日を提出したのですが依頼があった時対応できなくて申し訳ありませんでした。
こちらの要望に対して迅速に対応していただきとても助かりました。 ありがとうございます。
①DWATの派遣は避難所支援だけで良いのか？ 被災地の福祉関係機関や事業所が早く平時の地域での福祉機能が復旧し果たせるように、必要な福祉専門職を直接、関係機関や事業所に派遣できるように、人材バンク的な働きも担った方がよいと思う。その為、社会福祉士会などの各職能団体との連携体制を事前に構築しておく必要があると思う。 ②フェーズによってはアウトリーチ活動も必要である。社会福祉士・ケアマネ・保健師・その他の専門職、その中に現地の専門職が入りチームをつくることで、包括的に効率良く機能することができると思う。 ③被災し受け入れ側になった時のDWATの活動について事前に想定しておく必要があると思う。 ④ゴールデンウィーク中の為かホテルが豪華過ぎであった。何だか申し訳なかった。
派遣日が決まっていたとしても、避難所の現状に合わせ、派遣中止を検討してもよかったと思います。 大変ななか、対応ありがとうございました。
特にありません。ご配慮いただきありがとうございました。

派遣にあたり、各施設において対応が違うと思うが、派遣時の取り扱いや派遣費用の取扱い等、各施設の状況を聞き取ることはできないか？ 派遣される職員にとって法人や施設からいろいろ言われ、気を遣いながら派遣に向かうことがあり、DWATとして、派遣にあたっての一定の見解や派遣の取り扱いを示して頂くことが出来るのであれば、ありがたいと感じる。

引継ぎが半日だったため会議があるとかなりスケジュールがタイトになってしまった。
群馬DWATの方と一緒に事前オリエンテーションに参加できたことで、他県DAWTの体制も事前に把握することができたのが良かった。
今後の振返り機会と一緒に活動した他県DWATや他県の専門職団体の方たちとも意見交換ができる機会があると良い。

静岡DWATの一員として、貢献できたか分かりませんが、実際の現場で「つなぐ支援」を実施し、難しさ大変さを学ぶことができ、大変良い経験になりました。

他県DWATでなく、一緒に活動できる体制があるといいと思う。また福祉的視点でのアプローチがもう少しできたのではないかと感じた。今回、機会をいただけて良かったです。

クールによって活動内容が異なる事、メインとなって活動する場合はある程度は主体的に活動できる場合もあるが、今回のサブアリーナへの配属DWATに関しては、メインのDWATと違い、役割も明確ではなかったかと思います。
あとは、自分自身の資格不足や経験不足というところもあり、このような場所での活動の機会を与えていただき、非常に刺激になりました。もっと専門職としての資格も含め自覚ある毎日（仕事）をしていくことが必要だと強く感じれたことが、今回は最大の収穫だったと思います。
また、クールの初めのほうは被災地での活動であったこともあり、被災地の状況をもとに被災者へ接触できたと思いますが、自分たちのように市内しか見たことない場合は、被災された人が輪島とか穴水などという情報はありますが、どのような状態化が理解できていないということがあり、実際に業務完了後に被災地へ輪島市役所まで視察に行ったのですが、想像していた状態とは全く別で、まだ3か月もたっているのにこの状態で、倒壊した家屋や道路の起伏、土石流が起きた場所などを見た時に初めて被災者の気持ちが少し理解できたような気がしました。被災地を実際に空間的に見ることも支援には必要なことだと感じました。

意見・要望はありません。
今後ともよろしくお願いいたします。

事務局のお仕事、大変だと思います。いつもお気遣いいただき、ありがとうございました。
ある程度、業務の棚卸が出来るのではないかと考えております。せっかく地区を設けたので、事務局でしかできないこと、県域でなければできないこと、圏域でできること、個人で出来る事（行うこと）を分けても良いのかなと思います。